

総務大臣賞

ICTを活用した 災害に強い町づくり

ねしんでんちょうないかい 根新田町内会

【団体概要】

町内会の発足は古く、現在101世帯が加入している。平成20年に自主防犯組織を設立したのを契機に、地域コミュニティがより活発になり、婦人会やシニアの親睦会等のサークルを立ち上げ、町内会をしっかりと下支えする環境を整えた。多彩な地域コミュニティ活動と、自主防犯、自主防災を町内会全体で推進し「楽しく、安心して暮らせる地域づくり」を目指して町民一丸となって取り組んでいる。

【背景】

平成27年9月の「関東・東北豪雨」災害で甚大な被害を受け、その際に町内会の95%の世帯が登録している「SMS一斉送信システム」が町民の情報共有手段として大きな効果を発揮した。従来から行ってきた防災活動に加え、このシステムを基軸とした「災害犠牲者“ゼロ”を目指した」新たな取り組みを始めた。

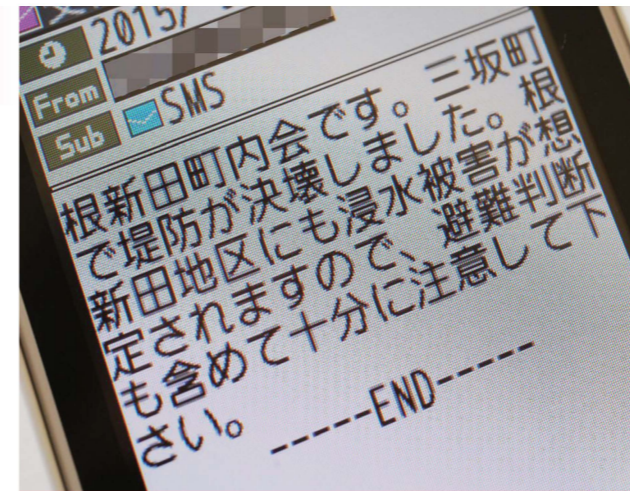
【取組の内容】

平成26年8月に地域コミュニティサイト「わがまちねしんでん」を開発、同年10月には自治会レベルでは全国初の「SMS一斉送信システム」を導入、翌年の豪雨災害で逃げ遅れを大幅に減らした。豪雨災害後には「避難行動計画マイ・タイムライン」作成のモデル地区に指定され、それと並行して住民の避難準備行動に役立てる地域河川の防災用ライブカメラを設置し、ホームページで公開している。また大地震に備えるため「SMS一斉送信システム」と「黄色いタオル」を併用した安否確認システムの構築や、「自主防災基本計画」を策定し、防災活動の指針とするなど、実効性のある活動を推進している。

【成果】

「SMS一斉送信システム」から「マイ・タイムライン」、「防災用ライブカメラ」の設置など水防災の新たな取組みや、震災時の初動対応として重要な先進的な安否確認システムなど、安心安全が更に高まったと住民から好評を得ている。

また、ホームページで積極的に活動を公開する事により、他の自治会との情報交換の場となり、特に「SMS一斉送信システム」は、他の自治会でも採用され、西日本豪雨等で大活躍した事は大きな成果といえる。



SMS一斉送信システムによるメールの発信



事務局に設置した防災用ライブカメラ



黄色いタオルによる安否確認



根新田町内会



選定委員Comment

- ▶ 設立年 不明
- ▶ 団体構成 101世帯約400名
- ▶ 所在地 茨城県常総市中妻町
- ▶ 連絡先 E-mail suga.hideo@neshinden.com
- ▶ 取組開始年月 平成26年8月～

町内行事の案内や予定変更の緊急連絡、防災や防犯に関する注意喚起など、町内会活動に伴う連絡の煩わしさと非効率に悩まされている町内会は多いであろう。その問題を解決し町内会活動のさらなる活性化を図ることを目的に、常総市根新田町内会がSMS（ショートメール）による一斉送信システム（SMSシステム）を全国で初めて導入したのは2014年10月である。必要なのは携帯電話番号のみのため、ほとんどの世帯がこのシステムに登録し使用が開始された。それから約1年後の2015年9月10日、鬼怒川が決壊し常総市の広範囲が浸水した。根新田地区も決壊の7時間後に浸水したが、決壊の6時間前からSMSシステムで鬼怒川や近隣の状況を随時発信したことにより逃げ遅れる人は他地区より少なかった。発信されたSMSの一部は以下のとおり。

2015.09.10AM06:13 現在、鬼怒川、小貝川の水位が上昇しています。テレビや常総市の発表する情報に十分注意して下さい。
2015.09.10AM10:19 旧市内の一部に避難指示が発令されました。十分注意して下さい。

2015.09.10PM12:22 鬼怒川(三妻小学校付近、他)で越水の恐れがあります。
2015.09.10PM14:23 三坂町で堤防が決壊しました。根新田地区にも浸水被害が想定されますので、避難判断も含めて十分に注意して下さい。

住民は災害危険を過小評価し「自分は大丈夫」と考えてしまう心理に陥りがちである（正常性バイアス）。そのため、市町村からの避難勧告・指示を聞いても「我が身に危険が迫っている」と感じない限り避難行動を起こさない傾向にある。

これへの対策は、住民が危険を「我が事」として理解できるように、近隣の状況や当該地域の危険の見通しなどを具体的に示し、情報にリアリティを持たせることである。根新田町内会のSMSシステムによる対応はこれの見事な成功事例である。

長い間、正常性バイアスの「壁」が住民避難を妨げてきたが、根新田町内会のSMSシステムはこの「壁」を打ち破る典型モデルとなる可能性を秘めている。

